

[成果情報名] 果実が大きいイチゴの新品種「珠姫」(たまひめ)

[要約]イチゴの促成栽培用の新品種「珠姫」は、収量が「アスカルビー」と同程度で、平均果重が 28 g 以上、30 g 以上の果実重量割合が 50%を上回る大果性の品種である。果実の糖度は「アスカルビー」と同程度であり、酸度は収穫期間を通して低い。

[キーワード]イチゴ、品種、促成栽培、大果

[担当]研究開発部育種科

[代表連絡先]電話 0744-47-4491

[研究所名]奈良県農業研究開発センター

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

近畿のイチゴ産地は消費地に近い立地であることから市場流通に加え、ケーキ店、高級果実店、外食店等との直接取引や直売・観光農園などが盛んである。「アスカルビー」、「古都華」より大果であり、酸味が少なく甘さを強く感じる品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「珠姫」は 2014 年に奈良県農業研究開発センター育成の系統 22-19-1 を種子親、「まりひめ」を花粉親として育成した品種である。系統 22-19-1 は「さちのか」を種子親、「とちおとめ」を花粉親とする系統である。
2. 花芽分化期は「アスカルビー」、「古都華」より遅く、9 月下旬である（データ略）。収穫始めはポット苗を用いた加温・高設栽培では 12 月中旬（表 1）、無仮植苗を用いた無加温・土耕栽培では 12 月下旬である（データ略）。
3. 促成栽培作型における総収量は「アスカルビー」と同程度で、平均果重は 28 g 以上で「アスカルビー」や「古都華」より明らかに大きく、総収量に占める 30g 以上の果実割合が 50%を上回る（表 1）。
4. 草姿は立性で、草勢は極めて強い（データ略）。
5. 果形は卵円形であり、果皮は光沢のある橙赤色で、果肉色も橙赤色である（図 1）。
6. 糖度は「アスカルビー」と同程度で「古都華」より低く、酸度は収穫期間を通していずれの品種よりも低い（図 2）。果実硬度は「アスカルビー」より高く、「古都華」と同程度か高い傾向にある（データ略）。
7. 食味アンケート調査により、「珠姫」の食味を高く評価する人が、おおよそ 4~10%の割合で存在することが判明している（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 萎黄病、うどんこ病および炭疽病のいずれに対しても罹病性である。
2. 果梗が長いため土耕栽培では高畝にする。
3. 県外における種苗の利用許諾は未定である。

[具体的データ]



図1 「珠姫」の果実

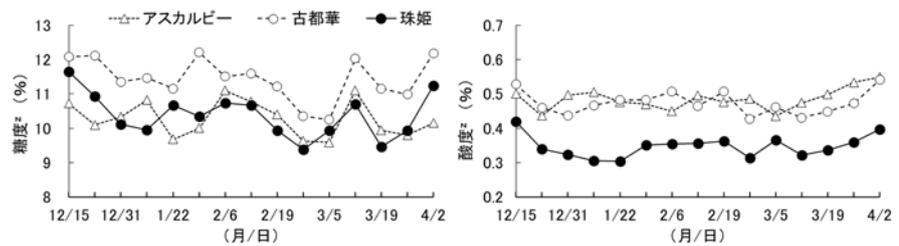


図2 促成栽培における「珠姫」の果実糖度・酸度の推移

^z糖度と酸度は1果をまるごと潰して得られた搾汁液をポケット糖酸度計((株)アタゴ、PAL-BX ACID4)を用いて測定、n=9

表1 「珠姫」の促成栽培(高設栽培)における月別果実収穫量

年次	品種	収穫開始日	収穫果重(g/株)						計	収穫果数 (個/株)	平均果重 (g/果)	正常果率 ^z (%)	30g以上の 果実割合 ^y
			11月	12月	1月	2月	3月	4月					
2016	珠姫	12月15日	-	70	154	191	209	113	737 a ^x	26.3	28.1 a ^x	88.1	54.1
	アスカルビー	12月10日	-	42	220	164	153	82	661 ab	36.9	17.9 c	79.5	25.2
	古都華	12月9日	-	94	98	146	193	88	619 b	28.9	21.5 b	90.6	37.0
2017	珠姫	12月17日	-	104	157	136	268	163	828 a	28.3	29.4 a	94.2	64.4
	アスカルビー	12月5日	-	158	156	189	211	135	849 a	44.8	19.0 c	90.2	20.1
	古都華	12月19日	-	60	122	270	271	102	825 a	35.6	23.5 b	96.2	50.5
2018	珠姫	12月14日	-	124	126	198	157	109	714 a	23.1	30.9 a	91.8	68.2
	アスカルビー	11月26日	6	144	119	174	151	64	658 ab	34.0	19.3 c	71.3	24.6
	古都華	12月12日	-	111	77	177	159	106	630 b	27.3	23.1 b	87.9	44.5

^z変形を伴う授精不良果を除く果実の重量割合

^y重量比

^x同じ年次の品種間で異なるアルファベット間に5%水準で有意な差があることを示す(n=4.ただし2018年のみn=8)

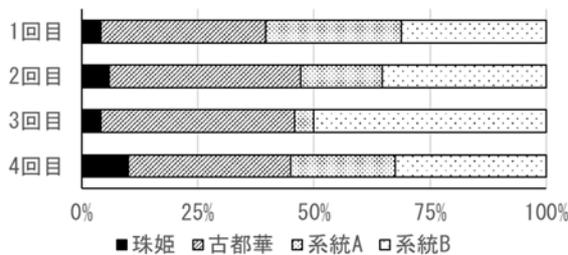


図3 食味アンケート調査結果(2018年1~3月)^z

^z品種・系統名を明示しないで、4つの品種・系統を食べてもらい、もう一度食べたいものを回答。異なるパネリストに対して4回実施(パネリスト数: 48、17、24、40)。

(矢奥泰章、東井君枝、西本登志)

[その他]

予算区分 : 県単

研究期間 : 2014~2019年度

研究担当者 : 東井君枝、西本登志、矢奥泰章、安川人央、皆巳大輔、堀川大輔、根本明季、厚見治之、宍戸拓樹、佐野太郎、嶋岡龍平、後藤公美

発表論文等 : 東井ら「珠姫」品種登録出願第34159号(登録出願公表2019年12月12日)